

鮭川村「鮭の里親事業」～鮭の稚魚を放流しました～

2月21日(金)鮭川小学校・東京都荒川区第二日暮里小学校・尾久宮前小学校の3校で育てた鮭の稚魚を自分たちの手で放流する「鮭の里親事業」が行われました。この事業は、鮭川の文化を知ってもらい、鮭を通じて子供達の交流を深めようと鮭川村が取り組んでいるもので、今回で14回目になるそうです。稚魚の放流の他にもふ化場の見学やスポーツを通しての交流、雪国体験などのイベントもあるそうです。放流は鮭川と泉田川の合流点で行われ、児童たちは大切に育ててきた稚魚に「がんばってねー」と声をかけながら泳いでいく姿を見守っていました。



放流の様子

鮭ふ化場見学

みんなで防ごう！油流出事故

最上川水系での水質事故の発生件数は国が管理する東北12水系の中で最も多く、近年ワースト1位が続いています。原因の多くは、冬季間における灯油の流出によるもので、暖房器具などを使用する時期に多発しています。灯油流出事故の約7割がホームタンクから小分け中にその場を離れる、バルブの閉め忘れなどの“うっかり”が原因です。ホームタンクからの小分け給油は18ℓ缶で1～2分と短時間なので、給油中はその場を離れない、給油途中で離れる時はバルブを閉める。これだけで灯油流出事故は7割以上も減らせます！水質事故は、突発的に発生し、下流へ拡散すると魚類のへい死や水道水等の取水停止など、環境や飲み水にまで影響する大きな被害につながる恐れがあります。給油中は、その場から離れないよう一人一人の心がけが大切です。

令和6年度「所内業務報告会」が行われました！

令和7年2月19日(水)に新庄河川事務所において「令和6年度の所内業務報告会」が行われ、業務に関する工夫・研究・調査・今年度工事紹介などについて報告がありました。どれも興味深い内容で、業務への熱意を感じました。鮭川出張所からは齋藤管理第一係長が『令和6年度洪水における対応について』と題し報告しました！

齋藤管理第一係長より一言

令和6年7月に発生した洪水に対する管内の被害状況と観測員の対応について報告しました。前例のない規模の洪水が各地で増えつつある昨今、鮭川の水位観測所では観測史上最大水位を記録しました。今回の経験を活かし、今後とも洪水時に迅速に対応できるように努めてまいります。



報告会の様子



表彰式の様子

「川をきれいにする児童図画コンクール」の入選作品が決定しました！

「川をきれいにする児童図画」の募集は、川で遊ぶ機会の少なくなった児童の皆さんに「川をきれいに」を心がけてもらうため、川を見てもらおう・関心を持ってもらうことを目的として、(※)最上川水系水質汚濁対策連絡協議会が、平成4年から毎年実施しております。今年度は33回目を迎え、最上川水系に所在する市町村の小学校(28市町村、応募校115校)より、1,844点の応募があり、ポスター部門・川景部門の2部門の入選作品が発表されました！



令和6年度の「ポスター部門」「川景部門」入賞作品はここからご覧いただけます。

<https://www.thr.mlit.go.jp/yamagata/river/jidouzuga/>

川景の部 銅賞
真室川町立真室川小学校 1年 舟生 伶央さん



※最上川水系水質汚濁対策連絡協議会とは、国土交通省東北地方整備局、経済産業省、山形県、山形県警察本部、最上川水系に所在する32市町村、東北電力(株)で構成され、最上川水系の河川について、河川水質汚濁対策に関する関係機関相互の連絡調整を図ることを目的とし、昭和47年3月に設立されました。

雪解けによる河川の増水(融雪出水)にご注意を！

これからの時期は、気温の上昇に伴い雪解けが進み川の水位が上がります。ひとたび雨が降ると、一気に水かさが増し洪水になる危険があります。春になっても、山間部にはまだ積雪が残っており、気温が上昇した際に少ない雨でも河川の水位が増水する恐れがあります。河川に近づく際は、事前に気象情報を確認しましょう。水位が上がっている時は大変危険ですので、河川には近づかないようにしましょう。

国土交通省が運営する「川の防災情報」では、河川の水位の状況などを、インターネットを通じてリアルタイムで配信し、いつでも、どこでも、避難に必要な情報を入手できるように提供しています。掲載情報は、**レーダー雨量・気象警報・注意報・水位情報・浸水の危険が高まっている河川・洪水予報**などです。新庄河川事務所のホームページからもアクセスできますので、ご活用ください。

アクセスはこちらから→



<https://river.go.jp>

今月の風景

～ 鮭川出張所管内をめぐる～

時代は大きく変化しても、止まることなく流れ続ける川。その川に沿って街をめぐり、その街の風景などを紹介していきたいと思います。今月は鮭川村の鮭の子館「**鮭の^{ようじんぎ}新切り**」を紹介します。

鮭川村の鮭の子館の軒下には鮭がつるされています。これを「鮭の新切り」と言い、伝統的な保存食だそうです。作り方は地域によって違うとのことですが、サーモンロードの会では鮭の内臓やえらを取り除き1ヶ月ほど塩漬けし、水で2日間塩を抜いたものを寒風にさらしてうまみを凝縮させるそうです。去年の夏の高温により採捕数が少なかったそうですが、鮭の新切りが軒下につるされる光景は冬の風物詩となっています。



国土交通省 新庄河川事務所 鮭川出張所
〒999-5203 山形県最上郡鮭川村大字川口字鶴田野3018-4
TEL 0233-55-3020 FAX 0233-55-3083

お問い合わせ

HP: <http://www.thr.mlit.go.jp/shinjou/>
広報紙担当: 齋藤・小野
広報紙に関するご意見・ご感想をお寄せ下さい。